

## 全国のビジター受入漁港の利用実態とその誘致範囲に関する調査研究

### Survey on the actual conditions of use and the scope of activities at the fishing port

○芳西優汰<sup>1</sup>, 菅原遼<sup>2</sup>, 畔柳昭雄<sup>2</sup>

\*Yuta Hounishi, Ryo Sugahara<sup>2</sup>, Akio Kuroyanagi<sup>2</sup>

**Abstract:** In this paper, as an example of how to use the water surface of the fishing port, we focused on the fishing port that accepts visitors for pleasure boats. As a result, 13 fishing ports were in operation. On the other hand, there were many fishing ports that did not keep track of records such as port calls and types of ships used. It was understood that the home ports of users of Misaki Fishing Port are concentrated in Tokyo Bay and Sagami Bay.

### 1. はじめに

近年、わが国の漁港では、漁港施設の利用低下や老朽化に伴う維持管理費の増大が懸念されている。こうした状況を踏まえ、水産庁は、2016年度に「インフラの集約・縮減に向けた漁港機能集約化・再活用推進事業」[1]を策定し、一部の漁港に対する漁港施設・機能の集約化の推進がなされてきた。そのため、漁港施設・機能の集約化に伴う利用低下が予想される漁港では、有効活用の方策が模索されており、養殖や観光等の漁港施設の目的外利用のあり方が検討されている。[2]

そこで本稿では、漁港水面の活用方法の一例として、プレジャーボート(以下PBと示す)のビジター受入を実施している漁港に着目し、PBのビジター受入の稼働実績の高い漁港を対象に、利用隻数の季節変動を把握した上で、PBの常時係留場所である母港を整理し、ビジター受入漁港の誘致範囲を捉えることを目的とする。

### 2. 調査概要

調査は、全国のビジター受入漁港146港の内、稼働状況を確認できた33港の漁港を対象に、ビジター受入の管理者に対する電話でのヒアリング調査を実施し、2018年度のビジター受入の月毎の利用隻数やPBの種類、PBの母港を把握した上で、ビジター受入の稼働の動向や季節変動、PBの誘致範囲等を整理した。

### 3. 調査結果

#### 3-1. ビジター受入漁港の利用実態

ビジター受入の稼働実績の高い漁港の概要をTable1に示す。調査の結果、年間利用隻数は13港において確認でき、内、年間利用隻数100隻以上の漁港は5港(保田, 三崎, 平塚, 垂水, 五日市)確認できた。

Table1. outline of Survey area

No.	漁港名	都道府県	ビジター管理者	受入時期	利用隻数 (H30年度)	記録		
						利用実績	PB種類	母港
1	ウトロ漁港	北海道	斜里町	H15年度	—	×	×	×
2	八雲漁港	北海道	八雲町	H22年度	—	×	×	×
3	木古内漁港	北海道	木古内町	—	—	×	×	×
4	須賀漁港	北海道	せたな町	H12年度	17隻	●	×	×
5	美園漁港	北海道	積丹町	H13年度	—	×	×	×
6	古平漁港	北海道	古平町	H13年度	—	●	×	×
7	余市漁港	北海道	余市町	H13年度	—	●	×	×
8	遠別漁港	北海道	遠別町	—	—	●	×	×
9	保田漁港	千葉県	鎌倉町	H12年度	1112隻	●	●	●
10	富浦漁港	千葉県	南房総市	H23年度	86隻	●	×	×
11	三崎漁港	神奈川県	指定管理者	H13年度	1401隻	●	●	●
12	平塚漁港	神奈川県	平塚市	H12年度	1403隻	●	×	×
13	妻良漁港	静岡県	下田土木事務所	H12年度	—	×	×	×
14	用宗漁港	静岡県	静岡市	H18年度	9隻	●	×	×
15	和歌浦漁港	和歌山県	指定管理者	H4年度	—	×	×	×
16	田尻漁港	大阪府	指定管理者	H20年度	93隻	●	●	●
17	垂水漁港	兵庫県	指定管理者	H13年度	185隻	●	●	×
18	吉川漁港	高知県	漁業協同組合	H18年度	—	×	×	×
19	田尻漁港	広島県	福山市	H22年度	2隻	●	×	×
20	箱崎漁港	広島県	指定管理者	H10年度	—	×	×	×
21	海老漁港	広島県	漁業協同組合	—	—	×	×	×
22	串浜漁港	広島県	漁業協同組合	—	—	×	×	×
23	沖浦漁港	広島県	大崎上島町	H15年度	5隻	●	●	×
24	原漁港	広島県	指定管理者	H27年度	31隻	●	●	×
25	五日市漁港	広島県	広島県	H20年度	104隻	●	●	×
26	大海田漁港	大分県	指定管理者	H11年度	—	×	×	×
27	小深江漁港	大分県	日出町	H11年度	—	×	×	×
28	壱津下漁港	山口県	下関市	H16年度	—	×	×	×
29	福間漁港	福岡県	福津市	H14年度	—	×	×	×
30	平漁港	長崎県	漁業協同組合	H10年度	—	×	×	×
31	桶合漁港	熊本県	指定管理者	H11年度	—	×	×	×
32	水橋漁港	富山県	富山市	H22年度	0隻	●	×	×
33	石田漁港	富山県	黒部市	H4年度	—	×	×	×

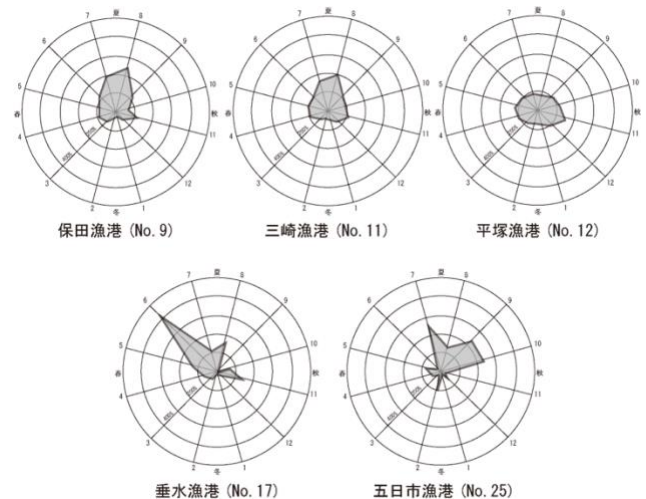


Figure1. Seasonal variation of usage

1 : 日大理工・大学院・海建      2 : 日大理工・教員・海建

### 3-2. ビジター受入の利用隻数の季節変動

ビジター受入の利用隻数の季節変動を Fig.1 に示す。2018 年の受入隻数 100 隻以上の漁港 5 港を対象に、利用隻数の季節変動を整理すると、保田漁港は、7 月・8 月、平塚漁港は、5 月・11 月、三崎漁港は、7 月・8 月、垂水漁港は、6 月・8 月・11 月、五日市漁港は 7 月・9 月・10 月に利用隻数が集中していることが確認できた。このことから、漁港のビジター受入は、夏期に利用者が集中しており、「春夏型」「夏型」「秋型」の季節変動を有しているといえる。特に、「夏型」の季節変動が高い保田漁港は、7 月～8 月にかけて漁業協同組合主体による祭事や魚食イベント等の開催が、利用隻数の増加の一因となっていると考えられる。

### 3-3. 三崎漁港における PB の誘致範囲

三崎漁港におけるビジター受入利用者の母港の分布を Fig.2 に示す。2013～2014 年度におけるビジター受入利用者の母港を確認できた三崎漁港に着目すると、30 隻以上の寄港がみられた母港は 4 ヶ所（東京夢の島マリーナ、横浜ベイサイドマリーナ、ヴェラシス、逗子マリーナ）、15 隻以上 29 隻以下の寄港がみられた母港は 5 ヶ所（ニューポート江戸川、横浜市民ヨットハーバー、油壺京急マリーナ、シーボニアマリーナ、サニーサイドマリーナ湘南）確認でき、東京湾および相模湾に母港の集中していることがわかる。また、大阪湾を母港とする利用者也確認でき、ビジター受入利用者の誘致範囲は広域にわたっていた。次いで、地域別の利用隻数に着目すると、相模湾では、逗子マリーナ（逗子市）が 50 隻と最も多く、東京湾では、横浜ベイサイドマリーナ（横浜市）が 86 隻と最も多くみられ、頻繁な利用がなされていることがわかる。

### 4. おわりに

ビジター受入漁港における利用実態と利用者の誘致範囲を把握した。しかし、各漁港ではハードの整備はなされているが、ソフトとしての寄港実績や PB 種類などの記録を整理していないことも分かり、こうしたデータ整理が必要と思われる。今後は、漁港の背後地域の空間変容や利用者の利用目的からビジター受入の漁港および背後地域への効果を明らかにしていく。

### 5. 参考文献

- [1] 水産庁：「水産基盤整備事業概算要求について」、2019 年
- [2] 水産工学研究所：「漁港水域の有効利用の促進を考える-栽培養殖・観光資源との連携を中心に-」、2015 年

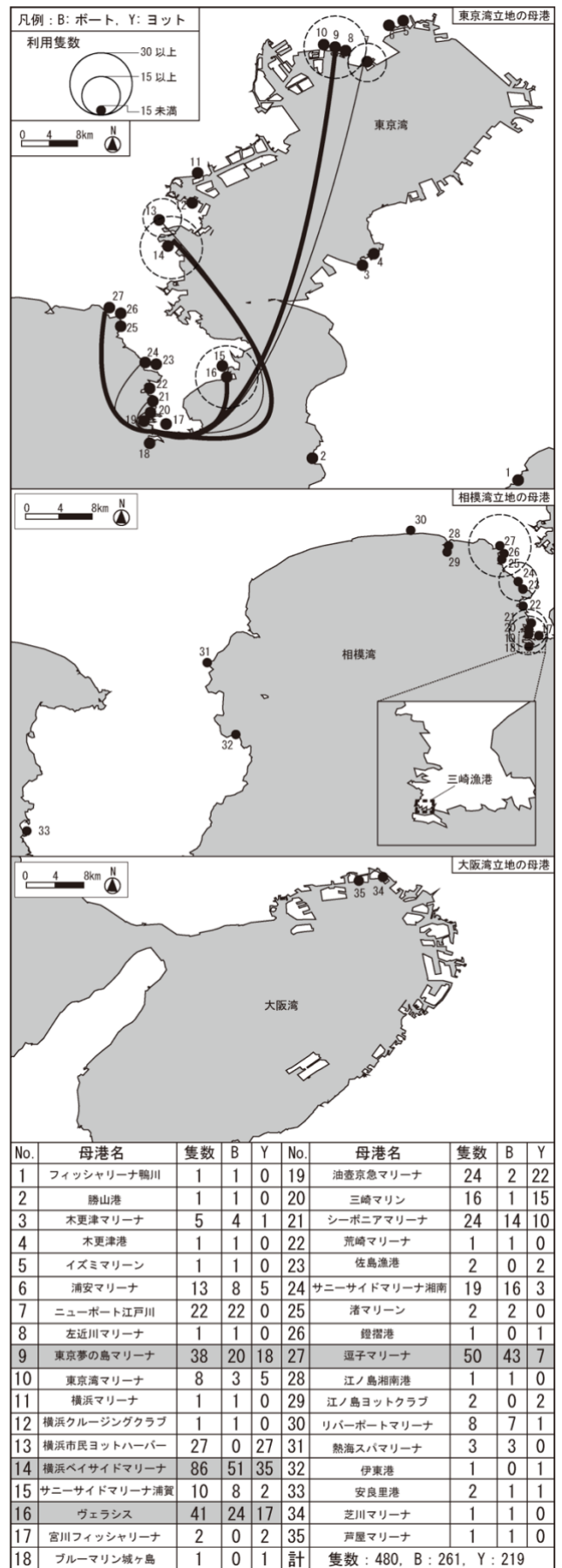


Figure2. User's home port of Misaki fishing port